

第2回「松戸市立病院がんシンポジウム」の内容のご紹介

地域がん診療連携拠点病院である当院では、地域におけるがん診療及び患者支援のさらなる質の向上をめざし、がん診療や患者支援に携わる医療従事者による平成29年度第2回「松戸市立病院がんシンポジウム」を平成29年10月13日(金)に開催しましたので、内容をご紹介します。

演題1 イントロダクション：がん治療の負担と軽減策

がん診療対策室 五月女 隆

がんと診断されると、がんの種類や進行の程度に応じ、様々な治療が行われることとなります。私たち医療者は治癒を共通の目標として治療を進めることとなりますが、患者さんの社会の一員としての“life”を尊重することも大事なことです。すなわち、quality of life (クオリティ・オブ・ライフ)の充実ももう一つの治療の目標に据えることとなります。Lifeには生命のみならず生活、人生、生きがいという意味もあります。

「がんになっても、あきらめない。」今回のシンポジウムでは、長期に渡る進行がんの化学療法にあたっての療養指導について通院治療室の柳生看護師、出産可能な若年女性が多く罹患する子宮頸がんの治療について婦人科の海野医師、人間の基本となる食べること、消化することを担う臓器である消化器のがんの外科治療について外科の竹内医師、そしてがん終末期の人生を充実させる場としての緩和ケア病棟での取り組みについて東松戸病院長の岩井医師の4名のスペシャリストにお話しいただきます。

演題2 がん患者指導管理料の算定について

がん化学療法看護認定看護師 柳生 沙耶佳

がん化学療法看護認定看護師、緩和ケア認定看護師、乳がん看護認定看護師でがん患者と家族が、その人らしい生活が送れるように支援を行っています。

取り組みの一つとして平成28年度は、医師と認定看護師が同席の上で患者に病状説明を行う「がん患者指導管理料1」を104件算定し、意思決定支援や不安軽減のための看護介入を行いました。また、身体症状のアセスメント、有害事象へのセルフケア支援やリンパ浮腫の看護指導・面談を行う「がん患者指導管理料2」は84件算定しました。

がん患者と家族は継続した支援を必要としている場合が多く、ニーズに合わせた対応できるような体制を強化していきたいと考えています。

演題3 松戸市立病院における子宮頸がん診察の現状と展望

～特に若年がん患者の妊孕性について～

産婦人科部長 海野 洋一

子宮頸がんは、HPV(ヒトパピローマウイルス)の子宮頸部への持続的な感染が原因で発症します。20～40歳代の若い女性が罹患しやすく、妊孕性が問題になります。

子宮頸部細胞診によるがん検診によって早期発見が可能です。細胞診で異常が認められた場合は、組織診にて確定診断を行います。前がん病変や微小浸潤がんであれば、子宮頸部円錐切除術を行うことで子宮を温存し、その後に妊娠・出産を行うことも可能です。

当院では円錐切除術を年間20-25例前後に行っています。前がん病変では95%以上、微小浸潤であるla1期で80%以上の治癒率でした。一方で円錐切除後の妊娠は、子宮頸部が短くなるために早産を起こしやすくなります。

定期的な子宮頸がん検診を行い、早期発見をすることが妊孕性の温存につながります。

演題4 松戸市立病院における消化器がんの外科的治療の現状と展望

外科部長 竹内 男

がん患者さんに対して外科が行う治療とは、手術によって病巣を取り除き、治癒を目指すということです。この大原則のもと、「広く大きく取り除く」、「大きく切り開いて取り除く」手術が行われてきましたが、外科治療の進歩と共に「必要最小限だけ取り除く」、「小さいキズで取り除く」治療法が登場し、確立しました。また、かつては取り除けない状態であったときはあきらめられていたのが、様々な工夫（薬物療法、放射線、血行改変など）を凝らして切除できる状態にする試みがなされ、切除不能ながん患者さんが「治癒」に至ることも経験するようになりました。

消化器領域における「必要最小限だけ取り除く」治療法の代表は、消化器内科で行う治療ですが、早期消化管がんに対する内視鏡下粘膜下層剥離術（ESD）です。ESDの確立によって多くの患者さんが手術を回避できるようになりました。「小さいキズで取り除く」治療法については、腹腔鏡手術の進歩・確立・適応拡大がその代表と言えます。胆嚢摘出から始まった腹腔鏡手術は、今やがんの手術にまで適応が拡大しています。かつては切除不能・余命数ヶ月とされた高度進行がんでも、化学療法により腫瘍が縮小して切除可能な状態になったり、解剖の熟知により主要脈管へ浸潤したがんに対する安全な合併切除手術法が登場したりしてその恩恵に与る患者さんが増加しています。

演題5 最後まで自分らしい人生を送るために～緩和ケア、緩和ケア病棟の役割～

東松戸病院 病院長 岩井 直路

緩和ケアとは、がん患者さんの心と体のつらさを和らげ、人生の最後まで自分らしく生きることがを支援するアプローチです。そのためには身体的な苦痛だけでなく、全人的苦痛にも対応することが必要です。

東松戸病院では平成27年10月に緩和ケア病棟20床をオープンさせ、良好なアメニティ、7対1看護体制のもと、医師、看護師、薬剤師、臨床心理士、栄養士、リハビリ訓練士の多職種チームによる緩和ケアを提供しています。急性期病院、在宅との連携も密に行い、地域包括ケアシステムの中核としての機能を果たしています。松戸市の年間がん死亡数の約6分の1を緩和ケア病棟で看取っており、超高齢社会・多死時代における重要な役割を担っていると自覚しています。

スタッフのレベルアップもはかり、基本理念「私たちの全ての活動は、人々のQOL向上のために」を胸に、市民に安心を与えられるよう日々の診療に取り組んでいます。

次回の「第3回 がんシンポジウム」について

日時 平成30年1月26日（金） 18時～19時30分（予定） ※詳細が決まり次第、お知らせします。

講座・教室のご案内

がん患者・家族「集いの場」

日時：平成29年11月30日（木）13：30～15：30（受付13：00～） 場所：松戸市立病院 2号館5階大会議室
問合せ：がん診療対策室 047-363-2171（内線1667）

緩和ケア教室

日時：平成29年11月27日（月）14：00～15：00（受付13：45～） 場所：松戸市立病院 2号館5階大会議室
問合せ：がん診療対策室 047-363-2171（内線1667）

健康教室（メタボ教室）

日時：平成29年11月8日（水）、13日（月）、20日（月）、29日（水）各回とも14：00～（約1時間程度）
場所：松戸市立病院 4号館地下1階 第一会議室
申込み・問合せ：健康管理室 047-363-2171（内線1008）

*事前に申込みをお願いします。詳細については健康管理室にご確認ください。